

宇治支援学校の言葉

ウジシエンガッコウのことば

平成25年度 No.2 7/19発行

京都府立宇治支援学校

〒611-0031 京都府宇治市広野町丸山10
TEL 0774-41-3701 / FAX 0774-45-2220

満開の桜に囲まれて始まった1学期を終える今、市道に面したフェンスには、高等部の生徒が植え付け、配置、管理している朝顔が美しい花を咲かせています。梅雨の頃はクチナシの白い花が淡く甘い香りで登校してくる子どもたちを迎えていました。改めて季節の移ろいを感じます。例年にもまして夏の訪れが早く、突発的な豪雨が降る不安定な天候の学期末となりました。

保護者の皆様におかれましては、本校の教育活動に御理解と御支援をいただきありがとうございます。

前回本紙でお伝えしましたように、今年度、子どもたちとともに四つの目標を作りました。

- ①元気に学校に来よう
- ②元気にあいさつをしよう
- ③いいところを見つけよう
- ④やってみよう 挑戦しよう



この四つの目標をそれぞれの学部の終業式で子どもたちと振り返りました。

先日、登校のスクールバスに乗車しました。子どもたちがどこから通っているのだろう、バスの中ではどうしているのだろうという思いで、昨年度からずっと思っていたことでした。それぞれのバス停から元気よく「おはよう」というあいさつとともにバスに乗ってくる子どもたちの姿があり、うれしく思いました。そして、送ってこられたお母さんやお父さんに「行ってきまーす」と手を振る子どもたち。一日の始まりがしっかりとあいさつから始まっていました。

バスの中では、いろいろなお話も聞かせてくれました。2学期もまた乗りたいと思います。

「①元気に学校へ来よう」では、昨年度に比べて、どの学部も1学期間一日も欠席のなかった子どもたちの数が増えていました。子どもたち一人一人の障害や発達状況、健康状態は様々ですが、健康管理を御家庭でしっかりと行っていることや子どもたち自身の学校に来ることの楽しみがあつてのことだと思います。子どもたちは学校に自分の居場所がある、勉強がわかりやすく楽しい、いじめられたりすることなく自分が大切にされている、認められているという感覚を感じてくれることを願っています。

それは、京都府の教育振興プランでいう「包み込まれている感覚」というものでもあると思います。

私達教職員も、そうした子どもたちや保護者の方々の思いにしっかりと応えていけるよう取り組んでいきたいと考えます。

長い夏休みに入り、猛暑が予想されます。体調管理にはくれぐれも御留意いただき、2学期に元気な姿で登校してくれることを願っています。

校長 澤田 均



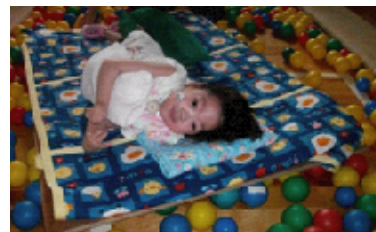
各学部より

小学部

小学部は、6月5日に学部行事である「第3回プレイ・フェスタ」を実施しました。5月のゴールデンウィーク明けから、プレイ・フェスタの学習に入り、「作ること」「身体を使うこと」「地域に出かけて地域の方との関わりのある学習」「友達と関わりのある学習」等々、たくさんの学習内容で単元学習を進めてきました。

今年は、「遊園地」をテーマに、遊びをイメージしました。小学部89名全員の子どもたちが、体育館に集まり、大きな集団の中で、ダイナミックに活動できました。高学年の子どもの司会や挨拶で、開会式が始まり、「太陽のサンバ」で元気に全員のダンスで始まりました。

大久保小学校の広野学級の子どもたちとの交流の機会にもなり、事前に本校の高学年の子どもたちが、ポスターを持って大久保小学校に行ってきました。「太陽のサンバ」を披露したり、ポスターを貼ってもらうようお願いしたり、大久保小学校の子どもたちの期待が膨らむ広報活動ができました。



中学部

中学部では、地域性を活かした取組をしました。1年生は茶畑に行き茶摘みをし、翌日に自分たちで製茶して飲みました。2年生は茶業協会の方に来ていただき、煎茶のいれ方を教えてもらいました。また、その経験を活かし、中学校との交流では煎茶によるもてなしをしました。3年生は取材に出かけて行き、城陽市と宇治市の良いところを調べました。また、自分たちでお茶会を開くために、茶碗や掛け軸作り、和菓子の注文等、それぞれ関連し広がりのある取組をしました。中学部1～4組は電車に乗って大型ショッピングセンターに出かけ様々な活動を楽しみました。これからも、校内での授業との関連や連続性を重視しながら、地域の資源を積極的に活用した取組を大切にしていきたいと考えています。



高等部

農園芸の校門販売を昨年度3学期から始めました。くらし職業コースとくらし地域コースの生徒が力を合わせて、収穫→袋詰め等→テント準備→販売に取り組みます。コースや生徒毎にねらいは違いますが、「仲間を意識し、思いやる(関係性の築き)」、「皆さんに喜んでもらう(地域への貢献)」、「社会・暮らしを意識する(地域とのつながり)」を共通に取り組んできました。将来の生きる力の一つとしての『つながる力』を育むため、今後もいろんな形で授業に取り入れていきます。

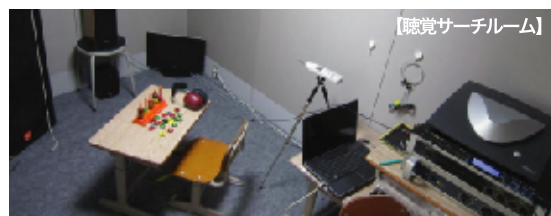
また、進路決定をめざした現場実習が5月から始まりました。(夏季休業中も計画)場所や人が変わっても持てる力が発揮できるかどうか。そして、最後は『自分で(進路先を)決める』ことができるかどうか。自分の力を信じてがんばりましょう。



SSC

相談	時間	相談者等	担当
巡回相談	10:00～	〇〇市立〇〇小学校	SSC聴覚
	10:50～	宇治市立〇〇小学校	地域支援センターうじ
	15:00～	城陽市立〇〇中学校	地域支援センターうじ
来所相談	10:00～	府内私立高等学校	SSC
	15:30～	府内在住幼児+保護者	SSC視覚・聴覚
	16:10～	府内在住幼児+保護者	SSC視覚

左の表は宇治支援学校に設置されている「京都府スーパーサポートセンター(略称SSC)」と「地域支援センターうじ」の7月某日の相談の予定です。もっと相談が多い日もありますが、よくある1日の予定です。SSCと地域支援センターうじでは、保護者や園・学校からの相談の依頼に応じて、巡回相談や来所相談を行っています。また、SSC独自の機能として「府南部の視覚障害・聴覚障害のある子どもへの相談支援」に依拠していることも大きな特色です。



【聴覚サークルーム】

このような地域への支援により、特別な配慮が必要な子どもの学習活動の充実や学校生活への参加を促進させ、各園・学校の教育指導の充実をサポートしています。また、幼保小中高校の通常学級等での支援から学んだ知見や、ユニバーサルデザインの授業の観点からも、本校をはじめ府立特別支援学校の授業改善や教育指導の充実にも活かしていきたいと思っています。